

# 新聞で見る まつや清の議会活動

マツキヨ通信 号外 2017年3月発行  
 発行：まつや清を応援する会  
 Tel：054-209-5677

2015年9月議会（10月1日 総括質問）

10月2日 静岡新聞

2016年2月議会（3月7日 総括質問）

3月8日 中日新聞

市は遊水地の将来像を示す「ランドデザイン」を策定中である。取組みとして、これの登録推進などの案をまとめた。塚本局長は「緑の党」への答弁。

静岡市議会9月定例会は1日、総括質問2日目をを行った。塚本孝都市局長は田川流域の麻機遊水地（総面積206ha）の自然再生と利活用に向け、関係者でつくる「田川流域麻機遊水地自然再生協議会」を再編する方針を示した。松谷清氏（緑の党）への答弁。

## 麻機遊水地協議会再編へ

### 静岡市議会 総括質問 利活用拡大に対応

は「県と連携して本年度に素案を作成し、市民意見を募集した上で早期に公表する」とした。

まつや清は、4年間「総合治水及び防災対策特別委員会」に所属し、麻機遊水地のランドデザイン・風水害対策に取り組んできました。

この質問の後、2016年7月、県と市、有識者、住民により「麻機遊水地保全活用推進協議会」が設立されました。城北学区は、第2工区、第4工区と接しています。第4工区の「池の森」の公園指定も協議課題です。

第2工区の一部は、ドイツの障害を抱えた方々との共生をめざす「バーテル構想」に基づき県のリバーフレンド事業の一環として、地元城北自治会や福祉施設「つばさ静岡」などがひまわりやれんげ畑などを地域のいこいの場として活用しています。

学校は25・3％に達した。中学の一四年度の認定率は平均9・5％で、平均を超えたのは葵区が全十八校中八校、駿河区が全九校中五校、清水区が全十六校中六校だった。市教委学事課によると、認定世帯には修学旅行や入学準備金、学用品などの費用を援助している。市内には小学生が約三万二千五百

人、中学生が約一万六千四百人いる。認定率が上がっている要因は、不況や就労困難、離婚による低収入世帯の増加などが考えられるという。

まつや清は、子どもの貧困の実態調査を求めました。

1年かかりましたが、2017年度予算に、「子どもの貧困対策実態調査」が予算化されました。

各年代の子どもがいる6万6,000世帯のうち、6,000世帯、扶養手当等制度利用者4,600世帯のうち1,500世帯が抽出調査対象者になります。

調査の結果を期待したいと考えます。

# 増える就学援助 8.8%に

## 静岡市 14年度、就労困難などで

総括質問

静岡市議会二月定例会は七日、総括質問の会を松谷清氏（緑の党）が質問。池谷真樹教育局長は、就学援助認定率は年々上がっており、二〇〇七年度に5

・1%だったのが、一四年度は8・8%に増加したと説明した。小学校の一四年度の認定率は平均8・4%。平均値を上回った。小規模校を除くのは、葵区が全三十八校中十七校、駿河区が全十八校中八校、清水区が全三十三校中十二校

